

これから

篠遠 早紀
佐藤 源弥

セミの声からも前期の終わりを感じられるような新元号初めての夏、私たち二年生は、自らの興味・関心と向き合い研究室希望届を提出しました。「新元号になる」、「時代が変わる」という言葉以上の重みがある体験をして、私たちは変わらず国語教育コースの一員のままです。この当たり前の事実は、私たちには帰ってくる場所があるという安心感を与えているように思います。またこの事実が、国語教育コースであることを誇りに思わせてくれるようにも感じます。後期からは、さらに専門的な国語の授業が増え、研究室ごとの活動も増え、頼れる先輩方とともに、より多くのことが学べるようになっていきます。そのような新たな環境の変化に対し、一抹の不安はあるものの、期待で胸がいっぱいです。私たちは、これから自らの理想を見つけ出すため、そして理想に近付くた

めに、日々学習の営みを繰り返していきます。今までの学びを次の学びへと活かし、失敗を受け入れていくという姿勢で、これからも私たちらしく頑張っていきたいと思っています。しかし、時間は有限です。それでも、私たち二年生のもつエネルギーは、可能性は、決して有限ではないと思っています。残りの長く短い学生生活の中で、お互いを認め合い、高め合うことを通して人間的に成長できると確信しています。そして卒業時には、国語教育コースで良かったと全員で笑い合えるような、そのような有終の美を飾りたいと思っています。私たち二年生の行く末をどうか最後まで見守っていただけると幸いです。

(しのとう さき 信州大学教育学部国語教育コース二年)
(さとう げんや 信州大学教育学部国語教育コース二年)